

6月26日、「思いの強さと行動で、私は輝く」というテーマで講演をさせていただきました。一度しかない自分の人生。しかも100年生きる時代になりました。ひとりひとりが自分らしく生きるために心がけていくことは何でしょうか。

男女平等度を示す世界経済フォーラムが発表している最新の「ジェンダーギャップ指数」で、日本は世界156カ国中120位、先進国では最下位です。日本でも女性の活躍推進が叫ばれ、対策が進んでいるように思われていますが、他国がもっと速いスピードで進んでおり、日本は取り残されています。

昨今ジェンダーは女か男かの二項対立ではなく性別を超えて捉えられるようになりました。さらに広くみても、社会的に立場の弱い少数派の人々全般を指すと言えるでしょう。

日本では同調思考が根強く「みんな同じがいい」という考えは時に人を生きにくくさせます。しかしその考えも徐々に希薄になり「みんな違っていい」という考え方が生まれてきました。異なる立場の人から出る意見や考え方こそが、人の思考や行動を刺激し、成長を促します。多様性を尊重する文化がないと、これから日本は世界で取り残されていくと思います。

講演では、就職、結婚出産、4年の専業主婦、子育てしながらの起業、途上国支援、二度目の起業(食品ロス削減事業)などについてお話ししました。今でこそ複数の会社を経営し、大学での仕事、起業家へのアドバイスをさせていただいていますが、決して順調な人生だったわけではありません。数多くの失敗がそこにはあり、そこから何を学んだか、人生の岐路に立つたびに何を大切にしてきたかを、事例を挙げつつお伝えしました。

私は子どもの頃、自分の民族的アイデンティティーやルーツについて悩んでいました。また、新卒で総合職(男女平等に仕事ができ、給料や転勤の有無も同等)として入社した企業でも、圧倒的な男性社会に戸惑いました。子育てと仕事を両立する同僚や先輩は皆無に近い状況でした。現在、経営者の立場からみても女性経営者は1割にもなりません。常に自分がマイノリティーの立場に置かれる状況がとても多いのです。

その反面、人と違う視点ができ、自分の判断軸が育っていきました。異なる視点を持つからこそ社会のあり方に気づく点があり、提言できることがあります。仕事においても、多様性あるメンバーを受け入れることで商品やサービス開発力の向上にもつながっています。

「人と違うことは強みだ」と、堂々としていいと思います。まずは視野を広く持ち、行動してみてください。踏み出した人にしか見えない景色がそこには広がっているはず。そうしているうちに、自分の価値に気づき、自分らしい選択ができるようになります。私の講演が皆様の何らかのヒントになれば嬉しく思います。

文 美 月